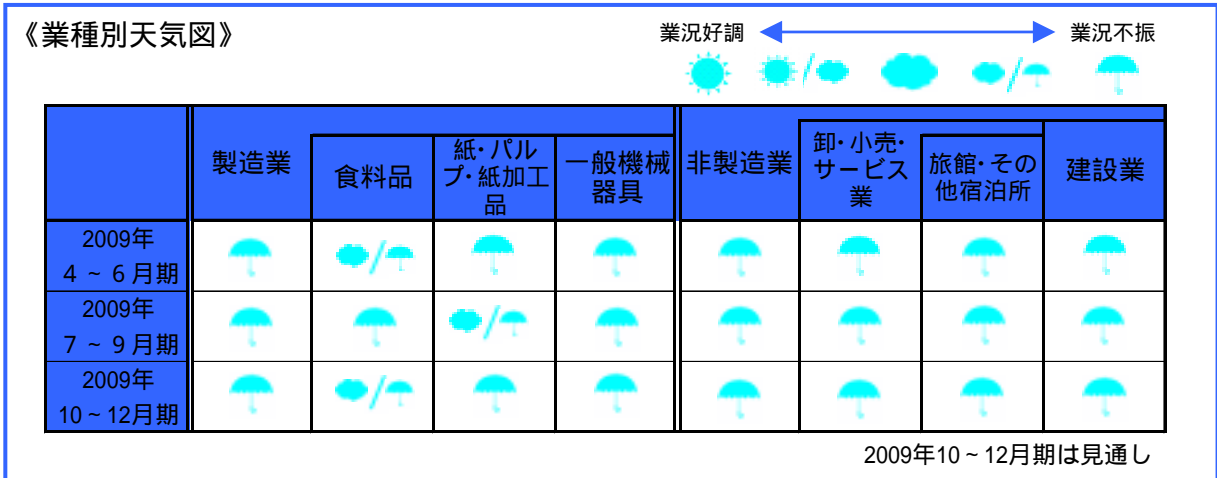
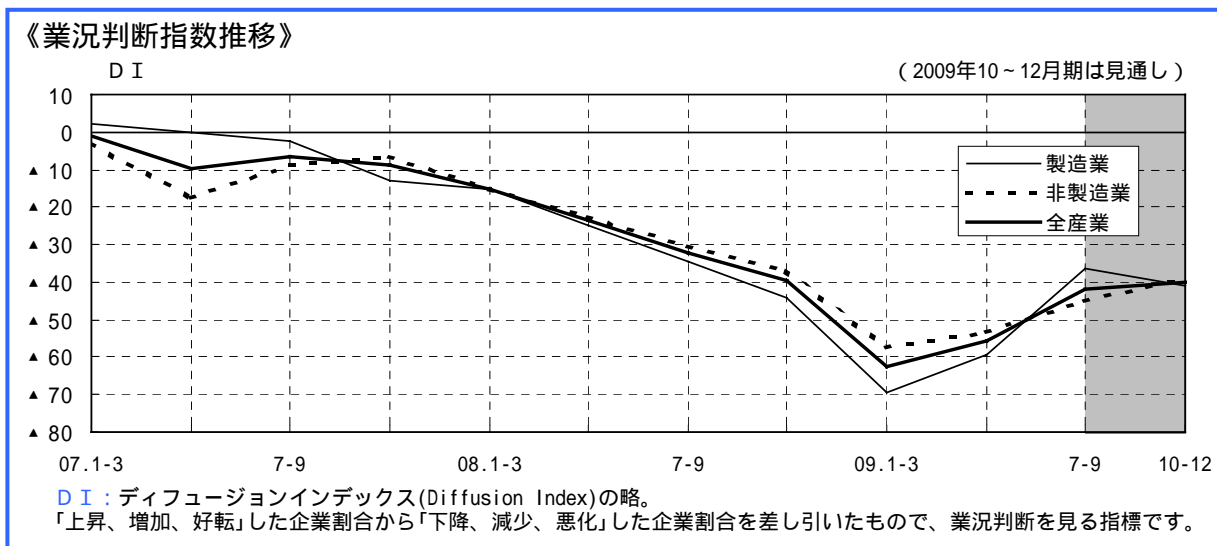


業況概要(自社) ～全産業DIは連続して上昇、業況判断に下げ止まり感～

静岡県東部地域における2009年7～9月期の業況判断DI(全産業)は▲42.0(前期▲55.6)と前期に引き続き上昇し、各企業の業況判断には下げ止まり感が現れている。製造業、非製造業ともに改善傾向にあるが、特に製造業の業況判断DIは▲36.2(同▲59.3)となり、2007年7～9月期以来2年ぶりに非製造業の業況判断DIを上回った。

2009年10～12月期の予測DI(全産業)も▲39.9と今期比若干改善を見込んでおり、先行きに対する下げ止まりや反転上昇への期待感も徐々に拡大しているとみられる。



《調査の概要》

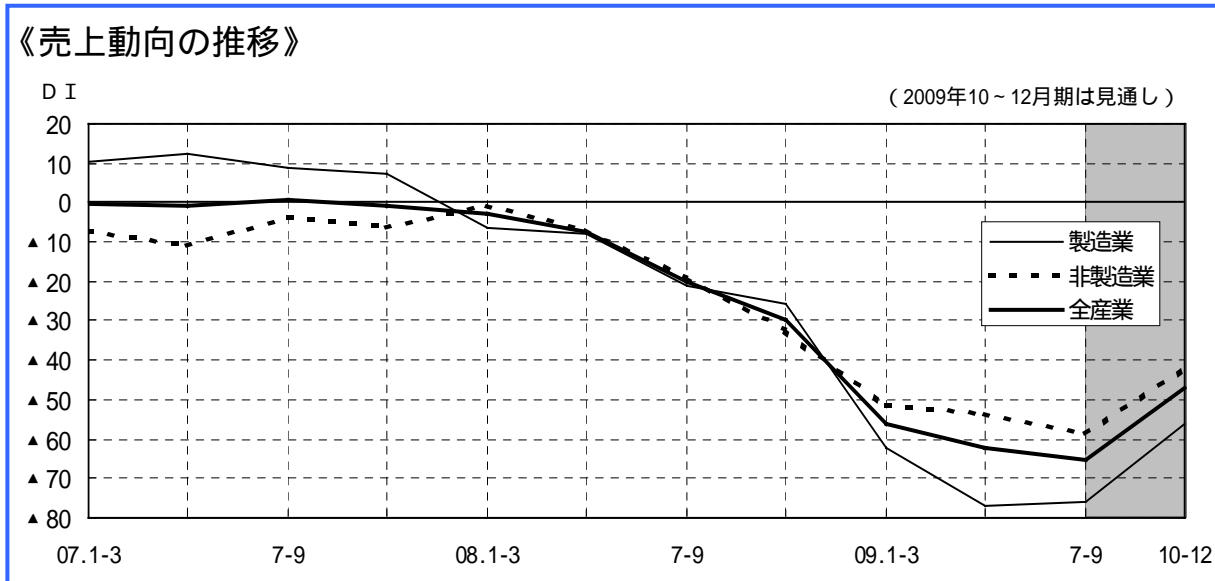
- | | |
|--|---|
| <p>1. 調査目的
静岡県東部地域(富士川以東)の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握</p> <p>2. 調査対象企業
静岡県東部地域に立地する企業 1,020社
回答数286(回答率28.0%)
業種別企業数は4ページ下段図表を参照</p> | <p>3. 調査方法
当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査</p> <p>4. 調査対象期間
実績:2009年7～9月期
見通し:2009年10～12月期</p> <p>5. 調査時点
2009年8～9月</p> |
|--|---|

売上動向

D I の低下が続くも、下げ止まりへの期待感は強まる

2009年7～9月期の全産業の売上動向D Iは8期連続で低下し▲65.0(前期▲62.2)となった。製造業では、パルプ・紙・紙加工品でD Iが大きく上昇したが、金属製品や一般機械器具ではわずかな改善にとどまり、食料品では逆に大きく落ち込んだため、全体D Iは▲76.2(同▲77.1)と概ね横ばいで推移した。一方、非製造業では旅館・その他宿泊所や建設業でD Iが低下したことから、全体D Iは▲58.6(同▲53.5)となり、判断は引き続き悪化している。

2009年10～12月期(見通し)の予想D Iは全産業で▲47.2と大きく反転上昇している。製造業、非製造業ともD I改善を見込んでおり、下げ止まりへの期待は強まっている。

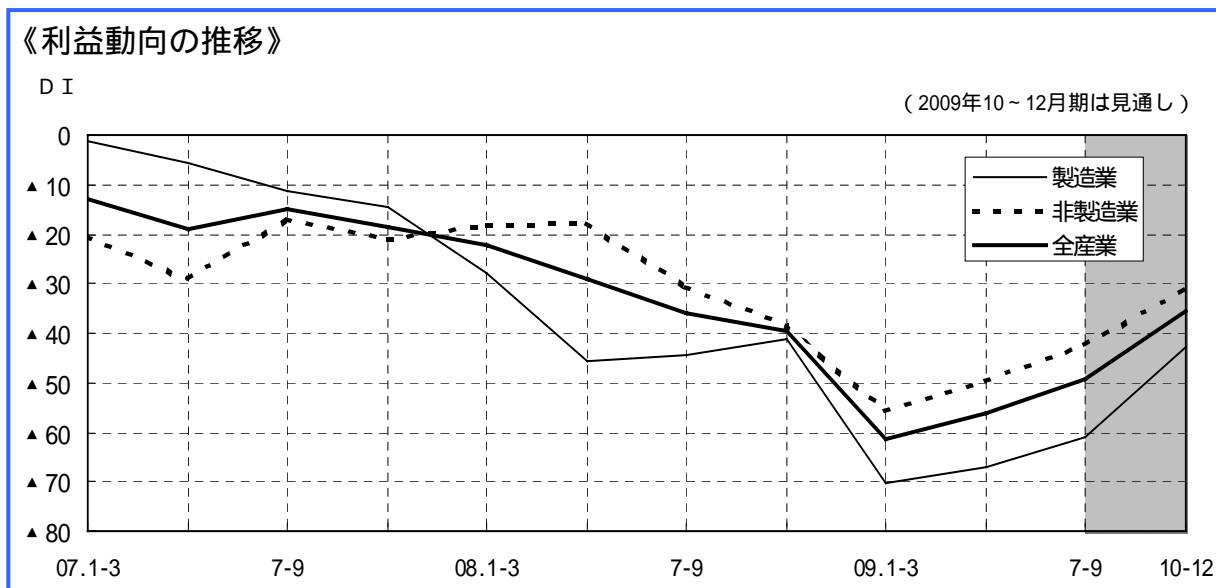


利益動向

D I は連続して上昇も、依然低い水準

2009年7～9月期の全産業の利益動向D Iは▲49.3(前期▲56.1)で、前期に続き上昇となっているが、水準自体はまだまだ低い状態にある。製造業では食料品でD Iが低下したが、パルプ・紙・紙加工品、一般機械器具などでD Iが若干改善され、全体D Iは▲61.0(同▲67.0)と上昇した。一方、非製造業ではその他小売・サービス業等や建設業でD Iが上昇し、全体で▲42.5(同▲49.7)となっている。

2009年10～12月期(見通し)のD Iは、全産業で▲35.4とさらなる上昇を見込んでおり、利益環境の悪化は一段落すると見通している。

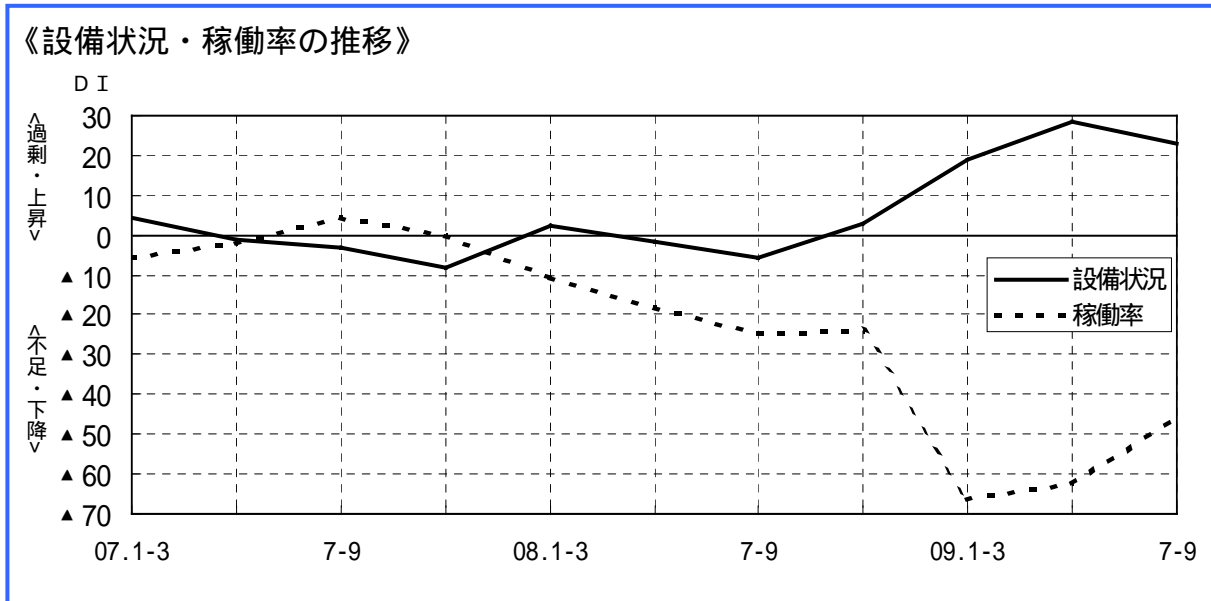


設備状況・稼働率
(製造業)

設備状況、稼働率ともD I改善も、依然低い水準

2009年7～9月期の設備状況D Iは22.9(前期28.7)と2008年7～9月期以来の低下に転じたが、D Iの水準は依然高く、「過剰」の判断が続いている。業種別では、食料品やパルプ・紙・紙加工品はD Iが低下し「不足」状態にあるが、他の業種ではD Iが引続き高い。

一方、稼働率D Iは▲45.7(同▲62.4)と2期連続で上昇しているが、水準は引続き「下降」感が強い状況にある。多くの業種でD Iは前期比上昇したが、D Iの値自体は依然大幅なマイナス水準にある。

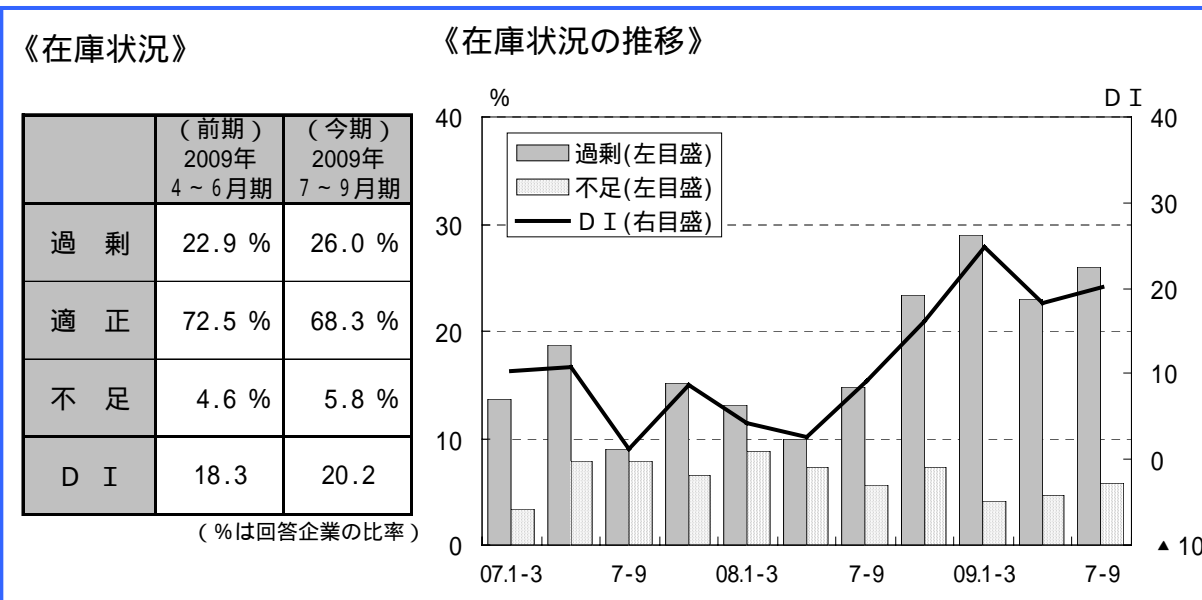


在庫状況
(製造業)

D Iが再び上昇に転じ、「過剰」とする企業が拡大

2009年7～9月期の在庫状況(製造業)D Iは20.2(前期18.3)で、前期の低下から再び上昇に転じた。「過剰」とする企業の比率が26.0%(同22.9%)と上昇した一方で、「適正」の比率は68.3%(同72.5%)と減少し、過剰感がより多くの企業に拡大している。

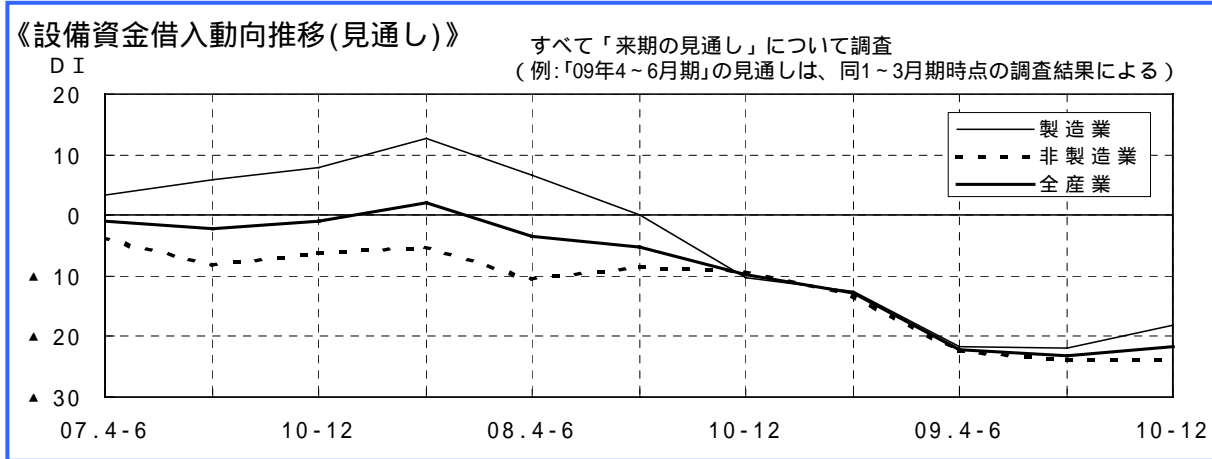
業種別では、従来比較的D Iが低かった食料品やパルプ・紙・紙加工品で、今期はD Iが上昇し、過剰感が強まった。逆に従来高かった金属製品や一般機械器具では若干D Iが低下しており、この結果、各業種間のD Iはほぼ同程度の水準を示している。



設備資金借入
動向(来期)

製造業で設備資金借入抑制の姿勢が若干緩和

2009年10～12月期(来期)の全産業の設備資金借入動向(見通し)DIは▲21.8(前期▲23.3)となり、わずかに上昇となった。うち製造業のDIは▲18.1(同▲22.0)、非製造業は▲24.0(同▲24.0)で、製造業で借入れ抑制の姿勢が若干ながら緩和されている。



経営上の問題点

引続き「受注・売上の停滞・減少」「過当競争・製品安」が多数

各企業が指摘する主要な問題点は引き続き「受注・売上の停滞・減少」(79.7%、前期81.0%)と「過当競争・製品安」(45.5%、同47.3%)で変わらず、比率も概ね横ばいで推移している。この他では、比率が低下していた「原材料・仕入れ商品の値上がり」が14.3%(前期11.2%)と若干上昇に転じており、原材料価格の反転等による経営環境悪化の再燃につながらないか注視する必要がある。

《経営上の問題点(上位8項目)》

(社、%)

	09年1～3月期		09年4～6月期		09年7～9月期		順位 変動
	企業	比率	企業	比率	企業	比率	
1. 受注・売上の停滞・減少	244	81.9	238	81.0	228	79.7	
2. 過当競争・製品安	136	45.6	139	47.3	130	45.5	
3. 人材の育成	87	29.2	86	29.3	94	32.9	
4. 生産・販売能力の不足	45	15.1	61	20.7	68	23.8	
5. 従業員の高齢化	54	18.1	57	19.4	57	19.9	
6. 原材料・仕入商品の値上がり	46	15.4	33	11.2	41	14.3	
6. 人件費の増加	47	15.8	48	16.3	41	14.3	
8. その他経費の増加	50	16.8	46	15.6	36	12.6	

《業種別：回答企業数およびDI》

設備資金は来期の見通し、それ以外は今期実績

業種	企業数	売上動向	利益動向	設備状況	稼働率	在庫状況	設備資金
食料品	7	▲71.4	▲57.1	▲42.9	▲42.9	28.6	0.0
パルプ・紙・紙加工品	19	▲42.1	▲5.3	▲21.1	▲26.3	21.1	21.1
金属製品	18	▲94.4	▲100.0	38.9	▲55.6	11.8	▲27.8
一般機械器具	19	▲89.5	▲84.2	47.4	▲57.9	21.1	▲36.8
その他製造業	42	▲78.6	▲59.5	35.7	▲45.2	21.4	▲26.2
製造業計	105	▲76.2	▲61.0	22.9	▲45.7	20.2	▲18.1
旅館・その他宿泊所	18	▲88.9	▲72.2	-	-	-	▲11.1
その他小売・サービス業等	105	▲60.0	▲39.0	-	-	-	▲27.3
卸・小売・サービス業計	123	▲64.2	▲43.9	-	-	-	▲24.8
建設業計	58	▲46.6	▲39.7	-	-	-	▲22.4
非製造業計	181	▲58.6	▲42.5	-	-	-	▲24.0